

平和の灯

題字 津留留尚
 戦没者追悼と
 平和の会発行
 〒849-0112
 佐賀県三養基郡みやき町
 江口7561
 塩川総合企画(株)内
 発行責任者 塩川正隆
 電話 0942-89-5135
 F A X 89-9281
 e-mail:senbo-peace@senbotsuya.com
 http://www.senbotsuya.com

南城市大里城址で活動 第8回「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」 遺体の一部を発見 遺留品はごくわずか

第8回「沖縄戦戦没者遺体収容の旅」を1月13日から15日まで3日間、沖縄県南城市で実施しました。福岡、佐賀をはじめ東京、神奈川、千葉、京都など8都府県から26人(男性20人、女性6人)が参加。今回は、遺体の一部とわずかな遺留品しか収容、発見できませんでした。戦後60年、収容活動が年々、困難になっている現状に直面しています。

地元のNPOも参加
 作業をしたのは、那覇市から東南約9kmの南城市大里。大里城址南斜面にある、旧日本軍が自然壕に手を加えてつくった大、小の陣地壕2ヶ所と散兵壕(適当な距離を隔てて兵士を散開させ、戦闘を有効にするために設けた壕)です。

14日朝から作業を開始。55年にわたって収容活動をしている国吉勇氏やNPO「ガマフィア」の具志堅隆松代表ら地元の人々も加わりました。

狭い通路(約10m)の奥にある大きい方の陣地壕(開口約1m、高さ約1.5m、奥行き約10m)には、雨水がたまっていて、自然湧水があり、まずポンプを使った排水から始めました。このあと、45人で地面を掘り下げていき、土砂は袋に詰めて通路に別の45人がバトンリレーで外に運び出しました。現場雑木林一帯は斜面なので、土のうは足場にしなり、移動したりしやすいように積み重ね、並べたりして「道」をつくりました。運び出した

土砂は4tにも達しましたが、陣地壕からは、何も見つかりませんでした。米軍のケースフル発見別の作業グループが散兵壕から大腿骨、前腕骨、尺骨、足趾(足の指)、基礎骨のそれぞれ一部を発見しました。

さらに眼鏡、セルロイド製のケースと手榴弾も見つかりました。手榴弾は信管があり、危険なのでその場に置いたままにし、沖縄県と南城市で見つけられたものを報告しました。

また、陣地壕への通路付近で、米軍の電話ケーブル(約1m)を発見しました。旧日本軍がさらに南部に撤退した後、米軍が一時、この陣地壕を接収したのではないかと推測されています。

資料館で報告会
 収容した遺体の一部を翌15日、県平和祈念公園(糸満市)にある新設された「遺骨安置室」に納め、参加者全員で追悼しました。続いて平和祈念資料館の会議室に移り報告会を開きました。

高木一希事務局長が、昨年、坂本茂太郎副理事長と高田俊秀理事が亡くなったことを報告。この会から戦争体験者がいなくなりました。活動はここ15年が勝負。一人でも多くの方に遺体収容を進めたいと挨拶しました。

後世にどう伝えるか
 このあと、一人ひとりが感想や意見、思いを述べました。

「初めての参加。壕の中

で作業した。2歳と0歳の子どもがいる。平和をこの2人にどう伝えるか、自分の課題だ。」(佐賀県の参加者)

「戦争の悲惨さを証明する現場。絶対に風化させてはいけないと思う。」(千葉県の参加者)

「収容作業をすることで、少しは戦没者を供養できたかな、と考えている。」(福岡県の参加者)

「壕は暗くて狭い空間。外は危険だ。どういふ気持ちでいたのだろうか。」(大分県の参加者)

「戦争は人災。参加し戦争の現場を見た思いをどう後世に伝えていくか。」(福岡県の参加者)

親父会にきたよ
 「父は門司港から旧満州に行き、沖縄に戦死した。どこで死亡したか不明。作業をしながら、親父、来たよ」とささやいた。(福岡県の参加者)

「遺体の一部を見つけ、早く探し出してくれたい」という声があふいた。(福岡県の参加者)

「こんなところ(壕の中)で、人生を終わるのはいや。ここに眠っている方がいれば、明らかにここに連れ出してあげたい」という思いで作業した。(佐賀県の参加者)

戦争に向き合った参加者は、自宅、職場に戻ってからも物言えぬ戦没者に代わって遺体がいまだに放置されている現実、平和のありがたさを多くの人に伝えていきたい、と口にしていました。

平成24年度戦没者関係政府予算(案) シベリア関係予算倍増、硫黄島は約10億円で継続 厚生労働省社会・援護局 援護企画課外事室

平成24年度戦没者関係政府予算(案) 戦没者慰霊事業の推進 うち旧ソ連地域の慰霊事業 うち平和を祈念するための硫黄島特別対策事業

厚生労働省社会・援護局 (規模関係)

平成24年度戦没者関係政府予算(案)の主要事項

	【23年度予算】	【24年度予算案】
計	42,340百万円	38,222百万円(※)
※社会・援護局(経費)計上分	29,025百万円	26,910百万円
※社会・援護局(社費)計上分	9,100百万円	8,312百万円
1 遺族年金	27,080百万円	23,970百万円
(受給人員)	14,531人	12,463人
2 戦没者慰霊事業等の増進	2,291百万円	2,164百万円
うち、旧ソ連地域の慰霊事業等	14.1百万円	2.6百万円
※遺骨帰還関係経費55百万円→111百万円、身元特定作業経費50百万円→109百万円、慰霊碑等関係経費17百万円→18百万円、慰霊碑維持管理経費11百万円→22百万円		
2うち、平和を祈念するための硫黄島特別対策事業	1,680百万円	9,820百万円
※遺骨帰還関係経費110百万円→92百万円、慰霊碑関係経費50百万円→50百万円		
(1) 遺骨帰還等	1,766百万円	1,567百万円
○ 遺骨帰還等推進事業	1,567百万円	1,318百万円
(1.6地域)		
【遺骨帰還等推進地域】		
①フィリピン ②東部ニューギニア ③スマタラカ・ソロモン群島 ④パラオ ⑤インドネシア ⑥ミャンマー ⑦中国 ⑧韓国 ⑨モンゴル(※1) ⑩旧ソ連地域(※2) ⑪バロソク ⑫ザバイカル ⑬台湾 ⑭イルクーツク ⑮ウラル山脈 ⑯ブリヤート共和国 ⑰カザフスタン共和国		
○ 慰霊事業	104百万円	100百万円
(1.2地域)		
【慰霊事業推進地域】		
①フィリピン ②東部ニューギニア ③マーシャル・ギルバート ④マリアナ群島 ⑤トラック群島 ⑥北ボルネオ ⑦中国 ⑧韓国 ⑨モンゴル ⑩旧ソ連地域(※2) ⑪バロソク ⑫ザバイカル ⑬イルクーツク		
○ 慰霊碑の補修等	33百万円	58百万円
○ 遺骨・遺留品の伝送	21百万円	25百万円
○ 戦没者遺骨に係るDNA鑑定	40百万円	64百万円
(2) 戦没者遺骨による慰霊友好親善事業	2,830百万円	2,830百万円
(広域792人及び特定地域108人)		
(うち、民間団立慰霊親善等事業)	11百万円	11百万円
(3) 全国戦没者追悼式実行経費	133百万円	135百万円
3 博物館の運営費	4,292百万円	4,380百万円

※百万円単位で四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合があります。

1、平成23年6月26日、27日フィリピン・カモテス島における当会発掘遺体の鑑定予定について

【御省回答】フィリピン政府と遺骨収容についての覚書を交わすまでは難しい。報道された疑惑に関して、当省で確認したところ、盗掘の事実を確認できなかったが、平成23年度委託料は止めている。

2、沖縄県発表の戦没者収容計画(マスコミ発表の事実関係)について

【御省回答】平成23年度から新たな計画と予算を増額し取り進む。当会から、来年1月13日から15日の沖縄戦戦没者遺体収容(南城市)について、資料を情報センターで相談していることを報告した。

3、ベリリユー島遺体収容再調査予定について

【御省回答】前回は不発弾処理の関係で、数体しか収容できなかった。再調査については調整中。今回の資料は提出する。

4、台湾の寺院(台中宝覚寺他)に保管されている戦没者遺骨を含む遺骨の調査依頼について

【御省回答】台湾と国交があったとき、至る所にあった遺骨をまとめて寺院に収めた。台湾の一部の遺骨は分骨して聖路加に収めていた。詳しくは(財)台湾教会が慰霊祭等を行っている。

5、その他

戦没者遺児慰霊友好親善の在り方について(遺族会員以外への伝達方法)

【御省回答】慰霊友好回答してきた。だが、先般、日本に漂流した船に乗っていた遺体については朝鮮総連を通じて北朝鮮に返還している。祐天寺の遺骨についても同様の扱いをするように求めたが、外務省が窓口であるとの回答に終了した。

6、佐賀県議会提出の意見書(戦没者名簿の一元化)に対する回答

【御省回答】一元化は考えていないが、国と都道府県の連携がまずかったので、改善策を次回までに回答する。

7、前回御省否定のフィリピン人の墓盗掘の事実について(フィリピン大学教授証言、マニラ新聞)

【御省回答】古くからフィリピン人の骨の盗掘により、フィリピン人の歴史が閉ざされたとフィリピン大学教授ビクター・パス氏の論文や、鑑定できない「鑑定人」というフィリピン大学教授タ

8、当会主催第8回戦没者遺体収容の旅の結果について(沖縄県南城市)

【御省回答】戦没者遺体収容が重要か、遺体収容が重要か、戦争遺跡保存が重要か、北朝鮮の方の遺骨は遺族が判明しているにもかかわらず、国交がないから返還できないと

私たちが祖父父母世代は、日本を平和な国へと導いてくれました。その代償として多くの尊い命が失われました。私たちの父母世代は、日本を物質的に豊かな国へと導いてくれました。その代償として自然環境は破壊され、人間の絆といった心の豊かさが失われつつあります。私は今年で38歳になります。私たち世代は、子どもたち世代へどのような状態で日本を引き継ぐことができるのでしょうか？何を残すことができるのでしょうか？震災後、「絆」という言葉をよく耳にします。私は、「絆」という言葉に象徴されるような、心の豊かさを子どもたちに残していければと思います。その代償として物質的な豊かさが失われたとしても、それはそれで良いのではないのでしょうか。無論、心の豊かさも物質的な豊かさも、祖父父母世代が命をかけて導いてくれた平和があつてからこそなのです。この平和な日本を次の世代へ引き継ぐことは言うまでもありません。

(S・S)



遺体収容の旅に
参加した感想



高林 尚

「こんな所で死んでたまるか」
その言葉が頭から離れませんでした。
今回、沖縄戦戦没者遺体収容の旅に参加し、沖縄県南城市を初めて訪れました。数件の民家が立ち並ぶ集落と公民館。そこから僅か数分歩いた先に、今回の作業を行う場所があり、戦後60数年が経過した今も尚、手つかずの状態であるように姿を現した現実に戸惑いを覚えました。唯一の本

土決戦と歴史は語りませんが、その悲しみに報いてない政府の対応を知ると失望せずには居られませんでした。
鬱蒼と茂った藪の中、むき出しの岩石の隙間を縫って、日本兵が作ったと思われる、基地と呼ぶにはあまりにもお粗末な「穴」の数々。その一つ、男性一人がやと通れるような穴に入ると、そこにはほろ程度の空間がありました。そこで戦没者の遺体・遺品を探す。
想像していたより環境は劣悪を極めており「こんな場所か？」と感じてしまうほどの場所でした。灯りは無く、足場の悪い粘り土。そこに止めたどくどく湧き出ている泥水。1月だというのに息苦しくなるほどの湿度。いつ崩れてくるのかも分からない岩盤。人間が居るべき場所ではありません

そんな不安定な感情で、劣悪な場所の上を掘り起こしている。「こんな所に居続けてたまるか」「こんな所で朽ち果ててきたまるか」と心から思いました。
そこには思想も、人種も、国籍もない。純粋に人間が人間を助けたという感情が自分に芽生えていました。こんな場所にいる人々が、どんな思想の持ち主だろうと、どんな肌の色だろうと、当時の敵とされた国の人であらうと、助けてあげたい。助けてあげたい。心からそう願ってやみません。
私の経験してきた中で、平和の尊さをこれほどまでに感じた事はありません。この経験を誰かに言葉で伝えても、自分が感じた何かも伝わりません。遠くに海岸線が見えましたが、当時はこの海岸線に何が見えたのだろうか。海に向こうで安否を願っている人を思い、希望を抱いていたのか、海に見える軍艦に絶望を見たのか。今となっては分かりません。
ただ、偶然にも遺体収容作業を行ったこの日、1月14日は母の誕生日でした。思わず携帯から母へメールを送り、妻へ電話をかけ子ども達の元気な様子を聞きました。ほんの少しの時間を奪った中で過ごしただけで、もう日常には戻れない、人としての尊厳が失われたような不安に襲われたのは事実であり、電波で故郷と繋がっている現代の私と違い、当時の兵士達は孤独だったのだらうと思うと、言葉に出来ない感情になりました。

め、長い間じっと耐えていたのかと思うと胸が締め付けられました。もしまだここに眠っている遺体があるのであれば早く出してあげたい、その想いで作業を続けました。
今回の作業では遺体は収容されず、作業を終えたときは少し残念に思いましたが、事務局の方の話聞いてすぐにその思いはなくなりました。
「自分たちは取り残されてる遺体でなくなることを目標に活動している。遺体が見つからなかったことは決して残念がることではない。少なからず今日作業した場所には遺体がないということを確認できた。そのことだけでも大きな一歩だ。」
この話を聞いて、実質5時間程度の作業ではありましたが、この日の自分たちの作業も少しは役立てたのだと感じるようになってきました。
戦後65年以上が経った現在でも、国内外に多くの日本人戦没者の遺体があり残されている状況だと聞きます。これまで、

「戦争」は過去の出来事だという認識がどこかにありましたが、この旅への参加を通してそうではないのだと考えるようになりました。すべての戦没者があるべき場所に帰ることができるよう、これからも様々な取り組みに参加していきたいと思

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をしてもらおうという目的でもありません。そして参加者は必ず報告会を行うのですが、今まで私はずっと報告を聞かずに立

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思



清藤久美子

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をしてもらおうという目的でもありません。そして参加者は必ず報告会を行うのですが、今まで私はずっと報告を聞かずに立

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思

その場所からほんの少し入った林の中の。塚は参加者が作業し易いようにと、国吉さん、理事長、理事の皆様が予めポンプで水を抜く作業を行って下さったとお話に、頭が下がる思いでした。
グスク・塚の周囲は1000年前の遺跡だと聞き、困難な歴史故の発掘のむずかしさを痛感しました。暗い塚や周辺の灰質の石垣、溝などの狭い範囲での活動となり、地層の変化などに気を配りながら、白いビニール紐での目印を意識しての作業となりました。それ



杉 恵子

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をしてもらおうという目的でもありません。そして参加者は必ず報告会を行うのですが、今まで私はずっと報告を聞かずに立

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思

その場所からほんの少し入った林の中の。塚は参加者が作業し易いようにと、国吉さん、理事長、理事の皆様が予めポンプで水を抜く作業を行って下さったとお話に、頭が下がる思いでした。
グスク・塚の周囲は1000年前の遺跡だと聞き、困難な歴史故の発掘のむずかしさを痛感しました。暗い塚や周辺の灰質の石垣、溝などの狭い範囲での活動となり、地層の変化などに気を配りながら、白いビニール紐での目印を意識しての作業となりました。それ



森高 勲

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

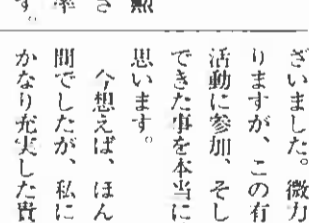
私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をしてもらおうという目的でもありません。そして参加者は必ず報告会を行うのですが、今まで私はずっと報告を聞かずに立

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思

その場所からほんの少し入った林の中の。塚は参加者が作業し易いようにと、国吉さん、理事長、理事の皆様が予めポンプで水を抜く作業を行って下さったとお話に、頭が下がる思いでした。
グスク・塚の周囲は1000年前の遺跡だと聞き、困難な歴史故の発掘のむずかしさを痛感しました。暗い塚や周辺の灰質の石垣、溝などの狭い範囲での活動となり、地層の変化などに気を配りながら、白いビニール紐での目印を意識しての作業となりました。それ



是永 英利

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

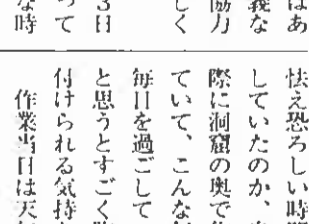
私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をもら

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思

その場所からほんの少し入った林の中の。塚は参加者が作業し易いようにと、国吉さん、理事長、理事の皆様が予めポンプで水を抜く作業を行って下さったとお話に、頭が下がる思いでした。
グスク・塚の周囲は1000年前の遺跡だと聞き、困難な歴史故の発掘のむずかしさを痛感しました。暗い塚や周辺の灰質の石垣、溝などの狭い範囲での活動となり、地層の変化などに気を配りながら、白いビニール紐での目印を意識しての作業となりました。それ



座間 淳子

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

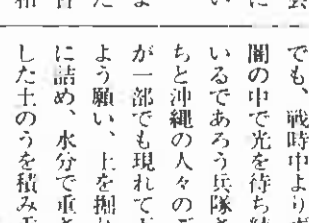
私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をもら

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思

その場所からほんの少し入った林の中の。塚は参加者が作業し易いようにと、国吉さん、理事長、理事の皆様が予めポンプで水を抜く作業を行って下さったとお話に、頭が下がる思いでした。
グスク・塚の周囲は1000年前の遺跡だと聞き、困難な歴史故の発掘のむずかしさを痛感しました。暗い塚や周辺の灰質の石垣、溝などの狭い範囲での活動となり、地層の変化などに気を配りながら、白いビニール紐での目印を意識しての作業となりました。それ



座間 淳子

今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

前回は、自分の沖縄戦の知識の無さに情けなくなり、「次回はもっと勉強して参加する」と心に誓ったものの、結局直前に沖縄戦の記述をしてある本をバラバラとめくり、沖縄の海をアメリカ軍の艦隊が黒く埋め尽くした、というところが心に残り、再び参加しました。
今回掘ったところは、光も差さないような、真つ暗な防空壕の穴ぐらでした。その中で、生活した跡の炭やガラスの破片が出てきたときには、本当にこの中で暮らしていたんだということを実感し、どんなに大変な思いで住民の方たちはここにいたんだらうかと胸が痛くなる思いでした。
収容と仮安置を終えて、平和祈念公園から沖繩の海を見て、「このきれいな青い海が、黒い艦隊によって埋め尽くされた」という話を、今一度書き記す苦勞があるだろう。これも感謝の一言だ。
今回は発掘場所が狭い事もあり、参加者の人数調整が行われたようだ。少人数の参加ながらコミュニケーションが女性の間では良く取れた。名称を婦人会か美人会と付けても良さそう。座間さん、杉さん、服部さん

中村さん、柴山さん有難うございました。
最後に住職の町田さん これからもよろしく。
今年度の総会で遺体収容作業を終了すると報告があった。国が補助金を出し、県が発掘する体制を整えるという。しかし今年も委員の希望に添えられなかった。
同じ思いを共有した仲間と、終戦を知らずに未だ眠っておられる遺体を少しでも早く太陽の光が当たる地上に出し、苦し

私は今回初めて参加させて頂き感じた事を、率直に述べたいと思います。まず私は労働組合の活動として、毎回メンバーを替えて参加しています。
多くの仲間色々な経験をもら

この度は3日間お世話になりました。久留米運送労働組合から代表者2名のうち一人として、初めて参加させていただきました。戦争で亡くなった方の遺体が、また発見されたので、参加したからには一人でも収容しお墓に入ってもらえるといいな」と思い作業にあたりました。遺骨収容作業がどのような場所でのように行われているのか、分らないままの初参加でしたが、今回参加して戦争が行われていた場所がこんな林や崖であって防空壕での生活は、敵から身を守る為に灯りのない狭い空間で、たぶん精神的にもつくられた

怯え恐ろしい時間を過ごしていたのか、自分が実際に洞窟の奥で作業をしていて、こんな気持ちで毎日過ごしていたのかと思うとすごく胸が締め付けられる気持ちでした。作業当日は天気が心配でしたが、曇り雨も降ってきたので良かったと思

「逸くに久高島、勝連半島などの沖繩の海を望み、かつての中国(明)との貿易時代の船の送迎の場所」と、説明があった小高い工事現場の広々とした公園の一角から望む風景はまさに絶景でした。やがて植えられたばかりの桜やしき若木が花を咲かせ、沖繩住民の憩いの場となり、慰霊の地となるだろうと思

その場所からほんの少し入った林の中の。塚は参加者が作業し易いようにと、国吉さん、理事長、理事の皆様が予めポンプで水を抜く作業を行って下さったとお話に、頭が下がる思いでした。
グスク・塚の周囲は1000年前の遺跡だと聞き、困難な歴史故の発掘のむずかしさを痛感しました。暗い塚や周辺の灰質の石垣、溝などの狭い範囲での活動となり、地層の変化などに気を配りながら、白いビニール紐での目印を意識しての作業となりました。それ

北朝鮮と国交を回復し戦没者遺骨の相互返還を 理事長 塩川正隆

金正日氏の死去によって北朝鮮が今後どのように変わっていくのか、世界中が注目しています。とりわけ日本の拉致家族がこの機会になんとか肉親の帰国を実現させたいとする切なる思いは痛いほどわかります。横田夫妻が「めぐみちゃん帰ってきて」と必死に訴えられる姿をテレビで見ると、心は張り裂けそうになります。

日本政府がこれまで北朝鮮に対してとってきた「対話と圧力」は建前であって、経済制裁を含む圧力のみを強めていきました。しかし、2月20日の新聞報道によると、戦没者の遺骨返還を相互に行おうと朝鮮労働党と日本政府の関係者が非公式に接触していたことが報じられていました。それによれば、北朝鮮には3万5千人の日本人戦没者が放置されたままで、日本政府はこの遺骨返還を求め、北朝鮮側は日本のために戦死した朝鮮人戦没者が現在も日本の寺院に保管されている遺骨の返還を求める内容でした。当会もこれまで日本政府に対して日本のために戦死した朝鮮人戦没者の遺骨返還を求めてきましたが、「北朝鮮は国交がないから返還できない」との回答でした。したがって国では政権交代したわけですから遺骨問題をきっかけとして国交を回復し、拉致問題の解決に向けての大きな転機に出来なものでしょうか。日本も政権交代し遺骨問題をきっかけとして国交が回復し、拉致問題の解決に結び付くことを願っています。

当会の前理事長・永田勝美氏と副理事長・坂本茂太郎氏(それぞれ故人)は平

壤で編成された元歩兵十連隊の兵士でした。生前からこのことを気にかけて、1992(平成4)年七月連隊の生存者で、朝鮮半島出身者の霊魂簿(戦没者名簿351人)を作成し、私に託したあと死去されました。それには、次の通り慰霊(追悼)の辞を述べています。

半島出身者に対する慰霊の辞

平成4年此処に霊魂簿を作成し、慰霊の言葉を申し上げます。

貴方々は昭和の中期の年代に於いて日本国の軍隊に或いは志願兵としたりは徴兵により参入され昭和十六年に発生した第二次大戦に日本軍の兵士として昭和十七年四月平壤の地を離れ、北朝鮮に送られ、比島ミダナオ島に赴き、炎熱、瘴癘の地に於いて且つ又食料、弾薬等の欠乏の苦境と戦い、一部の人は敗色濃いレイテ島に転戦し、運命なる故国を思いつつ無念の最期を遂げられました。

昭和二十年八月終戦と共に辛うじて生き延びた私達は貴方々同胞十三名と共に故国の土を踏むことが出来ませんでした。

欲すると欲せざるとに拘わらず日本国の為を散華された貴方々の事を思うと胸の痛みを覚え痛惜の念に堪えられません。然しながら貴方々の祖国は念願の独立を果たされ、今や世界の列強に伍して繁栄の途を歩んで居られます。南北統一の道も開かれようとして居り、貴方々の尊い犠牲は決して無駄になつては居りません。

何卒安らかに眠り下さい。

平成四年十月吉日

元歩兵七連隊戦友会

会長 高田 静夫

(以上原文のまま)

太平洋戦争開戦から70年が過ぎましたが、七十七連隊の慰霊(追悼)の辞にもあるように、この戦争に朝鮮半島から数十万人の人々が「欲すると欲せざるとにかかわらず」戦争に駆り出され、亡くなりました。その遺骨は今でも日本国内の寺院などで保管されています。

その数は数万人ともいわれていますが(日本政府は確認していません)。私は2月初旬に確認のため、その寺院のひとつである東京都日野区の祐天寺を訪ねました。納骨堂は厚生労働省が鍵をかけていて、立ち入ることはできませんでした。

一方、北朝鮮内には71か所の墓地に3万3800人の日本人が埋葬され(旧厚生省統引援護の記録)、遺族は一日も早い帰国を待ち望んでいます。これらの問題解決のためには、日本と北朝鮮が国交回復するしか方法はないでしょう。拉致問題も今のままでは解決しないでしょう。いくら日本が「制裁、制裁」と叫んでも北朝鮮と国交がないのは日本とアメリカ、韓国ぐらいで、世界100か国以上が国交を結んでいる現状を考えれば、制裁効果には疑問が残ります。また、過去の歴史を振り返るなら、わが国から国交回復に手を差し伸べてもよいのではないのでしょうか。

「生き延びた者の務め」果たし40年 高田秀俊前理事逝去



沖繩県にも同様の働きかけを行ったが、返事は同じだったため、「それなら自分でやるしかない」と亡くなるまでの40年間、戦没者の収容に当たられました。

私が高田さんと沖繩戦没者の収容を共にさせていたことになったのは、1977(昭和52)年からで、35年間もお世話になりました。

当会設立の2002(平成14)年からは理事として、当会が行ってきた沖繩戦没者遺骨収容の旅に参加され、沖繩戦没者の悲惨な体験を多くの参加者に話していただきました。高田さん、水い間大受お世話になりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

塩川正隆

沖繩戦の体験者である鹿兒島県出水市の高田秀俊前理事が昨年、逝去されました。高田前理事は、沖繩がアメリカから返還された1972(昭和47)年の翌年から「生き延びた者の務め」と自分自身に言いかけ、ご夫人と二人で沖繩戦没者の遺骨収容を始められました。すでに終戦(1945年)から28年も経過していたにもかかわらず、一歩山野に足を踏み入れると、散らばる戦没者遺体の多さに驚き、「国の責任で大がかりな遺骨収容を」と、当時の厚生省に訴えられました。沖繩の遺骨収容は終了したと、同省は横柄極まる態度に終始した、と述べておられました。

坂本茂太郎前副理事長 戦友と共に比・レイテ島に眠る



坂本茂太郎前副理事長が昨年7月3日亡くなられたこととは前号「平和の灯」20号でお知らせしていましたが、「戦友と共に眠りたい」と言う坂本さんの遺言に従い、

ご遺族の了解を得て遺骨を、戦友の眠るフィリピン・レイテ島の太平洋戦争における日本軍終焉の地・カンギボット山の麓に散骨してまいりました。ジャニー・ゼナイダ・ベルテハルさんと塩川正隆理事長

写真はフィリピン赤十字社で社会福祉マネージャー・ミンダナオ島カガヤン・オロロ市などを襲った台風21号はフィリピン赤十字社の発表で死者・行

台湾の「宝覚寺」に 1万人を超える日本人遺骨



「宝覚寺」に約1万体的遺骨が保管されていることが判明しました。この遺骨がパシフィック海峽で亡くなった方のものであるかどうかは明らかではありませんが、当時は日本の国土であった台湾に住む日本人が終戦から約10年かけて台湾全域に散らばる戦没者の遺骨を集めてこの寺院に保管した、と碑には刻んであります。

現在は毎年、台湾日本人会が追悼式典を行っています。このことは日本政府も把握していますが、戦争の残酷な一面を物語るこの事実を歴史の彼方に追いやることなく、記憶に刻みつけたいと思います。

その結果、台湾の寺院

旧日本軍が南方戦線に兵士を送る途中、台湾・フィリピン間のパシフィック海峽で30万人の兵士が亡くなったことは戦史に残されています。そのうち約2000人の遺体が台湾の最南端高雄市に流れ着き、埋葬されているとの情報を得たので、昨年2回にわたり現地調査を行いました。

比ガヤンデオロ市に10万円 協力に感謝



方不明者を合わせると、1000人を超える大被害をもたらしました。

同島と当会の結びつきは、6万人の旧日本軍兵士が亡くなり、故坂本茂太郎副理事長が戦争中、九死に一生を得た島というところもありたびたび訪問しております。

また、市長自らが旧日本軍の埋葬場所に案内するなど大変お世話になっておりました。今回の被害に対し皆様から募金を募り、多くの方々から協力いただきましたので、フィリピン赤十字社を通じて10万円の寄付をいたしました。

ご協力ありがとうございました。

坂本茂太郎前副理事長が昨年7月3日亡くなられたこととは前号「平和の灯」20号でお知らせしていましたが、「戦友と共に眠りたい」と言う坂本さんの遺言に従い、ご遺族の了解を得て遺骨を、戦友の眠るフィリピン・レイテ島の太平洋戦争における日本軍終焉の地・カンギボット山の麓に散骨してまいりました。ジャニー・ゼナイダ・ベルテハルさんと塩川正隆理事長

写真はフィリピン赤十字社で社会福祉マネージャー・ミンダナオ島カガヤン・オロロ市などを襲った台風21号はフィリピン赤十字社の発表で死者・行

コレヒドール島の売店に日章旗 旗に河村忠利君「呉海軍物資部」の記載



親光用のガイドブック「地球の歩き方・フィリピン」のコレヒドール島の紹介で売店の軒先に日章旗が展示してあるのがわかり、塩川正隆理事長が、フィリピン訪問の際に同島を訪ねました。

旗は呉海軍物資部に所属していた河村忠利さんのものと思われ、売店経営者の話では15年ほど前に日本人が寄贈したという事でした。当会としては、まず持ち主探しを行ってみたいと思います。

日章旗の持ち主を捜して 米国から当会HPに依頼

入った旗を見つけました。何年たっても、もし戦争に送り出した家族が、町か誰かのところへこの旗を送り返すことができ、亡くなった方に敬意を表し飾ってもらえれば、素晴らしいことだと思います。私は日本語が全然わかりませんが、旗の両側の写真を撮りました。この旗の情報が何か分れば、メールでお知らせください。

Michael Smartさんに日章旗は日立精機株式会社社員孫子工場の(下)葉島、大澤新さんに贈られたものであることを伝えていきます。

心当たりの方は当会までご連絡ください。

私の名前は Michael Smart です。父親は太平洋戦争中に太平洋に配置されました。私は(父の添えて送ってまいりました。所有物である)保管箱に



「新大澤新」君

認定NPO法人取得のための募金目標達成 2年間で229人、総額190万円 ご協力ありがとうございました

NPO法人への税制優遇措置を拡大する「認定NPO法人」取得の条件獲得のため、200人(1人3000円以上)の募金を呼びかけたところ、全国229人の方々から総額190万円の募金が寄せられ、取得条件である2年間で200人をクリア致しました。当会は引き続き募金活動を続け、来年度(今年8月以降)に申請を行う予定です。
ご協力ありがとうございました。

募金協力者一覧

2011年8月~2012年2月

大木久美子	座間淳子	江里口智子	古賀裕一	高木一希	中村加奈	弘瀬清子	弓削静彦	中里大樹	金栗直史	前園郁恵
大角真美子	田中雅義	坂美智勝	小塩徹也	高橋睦子	中村啓治	福田清治	吉塚竜哉	矢岳栗健	田中俊介	宮原三千代
坂木茂美	兵藤啓一郎	大熊良和	小西あや子	高林尚	中村信之	藤尾秀香	和田倫高	井川達也	藤光真吾	村山隆行
塩川正隆	前川政男	大島健二	古柳治貴	高山千佳	中村佳彦	古川昭人	渡辺卓也	藤尾昌代	中村幸美	柳原博子
八坂末廣	前川正夫	岡加奈子	坂口太郎	立石友子	中山稔己	堀元	鬼塚一枝	藤尾一光	溝口郁子	山崎滋記
株式会社カレングファーム	松田淳子	岡本昌和	坂田要郎	立石美恵	梨子木一高	益永智子	古賀貴久	石場雅子	黒江保正	黒江保正
(株)キシヤ	赤峰大介	乙丸法道	櫻井良郎	田中英一	西村和孝	松隈敬志	古賀麻衣	河野正通	山幸子	正米田昭徳
清藤久美子	阿久根佳奈子	小俣文男	重松智也	田中粹子	野口泰宏	松本真理	高瀬敏子	小坪隆康	米田昭徳	井口安則
小曾我信行	荒木陽佑	折岡健太郎	島健史	田中智明	野口千佳	松本和沙	坂本英明	妹尾益江	井口安則	井口安則
高田俊美	荒島博之	甲斐聡	島靖彦	田村隆志	野下孝剛	満園百合	松永義寛	高井カツミ	井口安則	井口安則
混王(株)	有馬彰博	金子美代子	下村知央	田村由美	野中剛	宮本百穂	森成裕一	高橋徳次	井口安則	井口安則
八木正志	一ノ瀬智之	河野大樹	下村幸枝	丹部山雅	信国さおり	牟田香津美	西村桂一	中村隆一	津留崎サツミ	津留崎サツミ
岩下元二	糸永祐志	北側満子	白坂良茂	堤山弘	服部友紀	牟田光夏	西村好子	横溝尚之	津留崎サツミ	津留崎サツミ
神戸道夫	今藤孝平	木村清美	菅原茂久	遠徳永直	服部知堯	森光真希	青山辰智	寒川大石	寺澤雅子	寺澤雅子
末安伸之	上野勝久	久木原耕晴	杉本恵子	豊坂部政英	原口勝洋	山口重潤	中岡友由	神野法美	中島政信	中島政信
野口健二	請関正紀	古賀大介	杉本瑠璃子	鳥中島嘉	樋口和幸	山口十正	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信
福岡賢二	江口昌文	古賀俊秀	須山雅生	永田健一郎	平野征隆	山崎吉	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信
田代和誠	江口昌文	古賀俊秀	須山雅生	永田健一郎	平野征隆	山崎吉	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信
大阪剛三	江口昌文	古賀俊秀	須山雅生	永田健一郎	平野征隆	山崎吉	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信
沖田輝子	江口昌文	古賀俊秀	須山雅生	永田健一郎	平野征隆	山崎吉	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信
九州日商興業(株)	江口昌文	古賀俊秀	須山雅生	永田健一郎	平野征隆	山崎吉	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信
古賀ミツエ	江口昌文	古賀俊秀	須山雅生	永田健一郎	平野征隆	山崎吉	中島聖子	高林勝美	中島政信	中島政信

平和講演会 テーマは「日本人の忘れもの」 戦没者に代わって平和を訴え 佐賀県みやき町と福岡県久留米市で開催

2011(平成23)年11月10日と2012(平成24)年2月4日、佐賀県みやき町主催の「歴史講座」と自治労久留米市労連主催の学習会で、当会の塩川理事長は「日本人の忘れもの」というタイトルで平和講演をおこないました。要旨は次の通りです。



日本は戦後の復興から、世界第3位の先進国となり、豊かな国になりました。しかし、戦後66年を過ぎて沖繩をはじめ世界各地で100万人を超す戦没者が忘れられようとしています。戦争を知る世代がいなくなりつつある今日だからこそ戦争を風化させないための、活動がさらに必要だと考えています。私自身戦争で父親を亡くしました。1977(昭和52)年から35年間、沖繩やフィリピンなどで戦没者の遺体収容活動を行っています。いつも胸をよぎるのは、戦没者が歴史の彼方に追いやられようとしている現実です。戦没者は「我々を忘れないでほしい」とささやいているのではないのでしょうか。その声を代弁したい、と

思っているのです。みやき町では、歴史講座の中で明治政府が廃仏毀釈の政策のもとに、仏教徒を迫害し、日清戦争から日露戦争へ突き進み、太平洋戦争に至った経緯について話しました。

久留米市労連の皆さんには(戦時中の「召集令状」を)、再び自治体の職員(当時は兵事係)が配布する時代が来ないよう奮闘することを期待しています。

また、最近、東京都や大阪府の学校では「日の丸・君が代」の強制や、従わなかった者の処分が行われ、平和教育がしにくくなっているといわれ

ていますが、戦時中「日の丸・君が代」が戦意高揚にいかに使われ、日本が戦争への道を進んでいったか、いつか来た道を歩むことのないように、平和を愛する労働組合員の皆さんは、不当な弾圧に負けないで頑張ってください。

7月1日(日) マニラ市内・用品調達など

7月2日(月) マニラ(午前10時) タクロバン(タクロバン泊)

7月3日(火) タクロバン市表敬訪問・マリア観音参拝、修復(タクロバン泊)

7月4日(水) タクロバン市表敬訪問

7月5日(木) オルモックからピリアバ

7月6日(金) オルモックからピリアバ

7月7日(土) 自由行動(マニラ泊)

7月8日(日) マニラ発午前10時

7月9日(月) 福岡到着午後2時30分、解散

費用 18万円(プラス空港税) 費用は参加人数によって変更することがあります。

締切り 平成24年5月31日

世代交代とコンピューターの台頭

一昨年、永田勝美前理事長、昨年は坂本茂太郎前理事長、高田俊秀理事を亡くし、当会に戦争体験者がいなくなりました。日本と戦ったアメリカの事情も同様で、祖父や父の遺品を整理していたら「日章旗が見つかった。大切な物の様だから遺族が見つかれば返したい」というメールがよく来るようになりました。

た。ホームページでは、英文で遺品の返還を呼びかけていることもありますが、アメリカでも戦争体験者が急速に少なくなっている現実を実感します。同じなのだから、コンピューターを駆使し当会の活動を支援している最近の若い世代には感謝しています。

当会の活動はホームページでもご覧いただけます。